

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	那須郡馬頭町立馬頭西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	11
児童数	13	17	14	20	6	13	0	82	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人のよさを生かし、基礎・基本の定着を図る指導の工夫  
～算数科の学習を中心として～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数(子どもの理解度に差がしやすい教科であるため)

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	テーマ	一人一人のよさを生かし、基礎・基本の定着を図る指導の工夫 ～算数科を中心として～
	仮説	(1) 基礎的・基本的な内容を身につけるために、一人一人のよさをとらえ、効果的なT・Tのあり方や適切な教材の活用など指導法の工夫をすれば、個に応じた指導の充実が図られ、確かな学力の向上につながるであろう。 (2) 子どもの学習状況を適切にとらえ、指導の目標を明らかにして適切に評価し、個に応じた支援をしていけば、意欲を持って主体的に学習に取り組むであろう。
	研究内容・方法	(1) 個に応じた指導のあり方 ア 効果的なT・Tのあり方 イ 少人数学級における習熟度別学習の工夫 ウ 努力を要する児童への手立てのあり方 (2) 教材の開発(ワークシート・ヒントカード) (3) 指導と一体化した評価計画の作成 (4) 学習の場の工夫 ア 朝の学習, 家庭学習, 放課後学習 (5) 算数コーナーの工夫 (6) 指導計画の見直し

平成 15 年度	テーマ	一人一人のよさを生かし、基礎・基本の定着を図る指導の工夫 (14年度と同じ)
	仮説	(14年度と同じ)
	研究内容・方法	(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ア T・Tによる指導体制の工夫 イ 小規模校における多様な学習形態のあり方 ウ 児童の実態把握と手立ての明確化 (2) 発展的な学習や深化・補足的な学習など個に応じた指導のた

	めの教材の工夫 ア 算数プリントの作成・活用 イ ワークシート・ヒントカードの工夫 ウ 家庭学習を充実させるための工夫 (3) 評価を生かした指導の工夫 ア 評価規準表の見直しと活用 イ 自己評価・相互評価の工夫 (4) 学びを支える学習環境の整備 ア 日課の見直し イ 「学習の進め方」の作成・「学習のやくそく」の見直し ウ 朝の学習・放課後個別学習の充実 エ 表現力・読解力の向上の手立て (5) 家庭・地域との連携 ア 児童・保護者へのアンケート調査の実施 イ 学校便り等普及・啓発活動
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	テーマ 一人一人のよさを生かし、基礎・基本の定着を図る指導の工夫 研究の見通し 小規模校における習熟度別学習のあり方を深める 研究の内容・方法 15年度を継続・深化
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制

【 研究組織図 】

教務主任、学習指導主任  
児童指導主任、  
算数科主任  
(校長、教頭)

授業研究部  
・ 指導方法の工夫  
・ 評価と支援の工夫  
・ 教材の開発、整理  
など

学習指導部  
・ 朝の学習の工夫  
・ 算数コーナー  
・ 放課後個別学習  
・ 各種調査  
など

下学年ブロック 上学年ブロック

昨年度からの改善点  
全職員13名という小規模校なので、  
3つあった部を2つに絞り、実際に動きやすいように変えた。

研究体制上の工夫  
算数は全学年T・T指導で行い、研究のための話し合いの共通理解を図りやすいようにしている。  
2・4・6学年担当 T・T加配教員  
1・5学年担当 教務主任  
3学年担当 教頭  
他の教科においても小規模校の利点を生かし、T・T体制が気軽にとれるようにしている。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### (1) 個に応じた指導のあり方に関して

ア T・Tで授業を行うことにより、児童一人一人を見取るゆとりができ、個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。その結果、下位の児童への支援が十分にできるようになりつつある。

**T・Tの型**      個別学習支援型  
                  個人支援型  
                  習熟度別学習支援型  
                  コース別学習支援型

イ 座席表や補助簿などを活用することにより、児童一人一人の実態や考えなどを踏まえ、個に応じた指導をすることができた。また、振り返りカードは、児童のみならず教師の言葉掛け、授業の進め方の反省にもなり有効であった。

#### 【振り返りカード】

単元名(                  )  
3分間振り返りカード (    年) 名前                  で振り返りましょう

日付	授業は分かった?	進んで学習した?	発表した?	ちょっと一言 (感想、分かったことなど)	先生から
/					
/					
/					
/					

ウ 自力解決の時間を十分に確保し、集団で練り上げる活動を繰り返すことにより、じっくりと考えることができようになり、よりよい解決方法を導き出す力がついてきた。

#### (2) 学習環境の整備に関して

ア 15分間の朝の学習（週4回：読書2回・算数2回）や週2回の放課後個別学習（パワーアップタイム）を続けることで、下位の児童の引き上げを図ったり、計算力の向上を図ったりすることができてきた。また、読書量が増えるなど本に親しむことができるようになってきた。

#### 【2003年1月実施の学力診断テスト結果：2002年との比較】

**国・算平均5段階分布**

2年	1段階	2人	0人
	4段階	7人	8人
3年	1段階	4人	0人
	4段階	1人	8人
4年	5段階	0人	2人

イ 「ノートの使い方」や「学習のやくそく」を見直し、全校体制で取り組んだ結果、ノートの使い方や進んで学習する態度など学習に対する良い習慣が身に付きつつある。

### 2. 今後の課題

- (1) 小規模校ならではのより個に応じた指導の工夫を深めるだけでなく、児童の将来にわたり確かな学力としてつながっていくための手立てを探っていきたい。
- (2) 評価方法の工夫や自己評価力の育成の工夫をさらに深めたい。
- (3) 上位の児童を伸ばす手立てがまだ不十分なので、発展的な学習のあり方などをさらに探っていきたい。
- (4) 家庭への働きかけを密にし、さらに連携を図り学力の向上を目指したい。

## 学力等把握のための学校としての取組

学力診断テストの実施（NRT）  
国語・算数の領域別の学力の変化を見るために4月に実施し、同じ児童の前年度との比較をした。（児童数が少ないので同学年では比較しにくい）

児童の意識調査（2003年3月全学年、他学年ごとに随時実施）  
児童の学習に関する興味・実態を知るために、教科の好き嫌いやT・T学習に対する気持ちなどを調査した。

家庭生活に関するアンケート（保護者・2003年9月）  
児童の家庭での生活・学習の様子を知るだけでなく、保護者の児童の教育に対する考え方を把握するために実施した。

授業参観・学力向上講演会に関するアンケート（保護者・2003年12月）  
T・T授業や習熟度別学習の授業を見ての感想や考えを把握したり、学力向上に関する講演会に参加しての感想を聞いたりした。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

2003年7月10日（本校）  
・ 研究校訪問の授業公開（2年生）  
・ 対象：町内学習指導主任または研究主任  
・ 目的：授業を参観してもらい、フリートークを通して授業や研究に対して気軽に意見や感想を出してもらい、研究の参考とする。

2003年10月9日（本校）  
・ 新教育課程研修会において授業公開（4年生）  
・ 対象：南那須地区小教研算数部会他  
・ 目的：学習指導についての研修を深め、充実を図る。

2004年1月20日（小川町総合福祉センター）  
・ 学力向上推進協議会において実践発表  
・ 対象：南那須地区管内学習指導主任または研究主任  
・ 目的：研究の成果の普及

2004年10月 公開研究会予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                     7～12学級  
                           13～18学級                 19～24学級  
                           25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                     T・Tによる指導  
                           一部教科担任制               その他
- 【研究教科】             国語                     社会                     算数                     理科  
                           生活                     音楽                     図画工作               家庭  
                           体育                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有     無